

第12回全国高校生介護技術コンテスト - 事前課題 -

佐賀とみ子様(1943年生)は、物忘れが頻繁にみられる82歳の女性です。長男の結婚後は夫と二人暮らしになった。5年前に夫が脳梗塞を発症し、1年間介護をするが他界、一人暮らしとなった。3年前に転倒が原因で右大腿部頸部骨折し、人工骨頭置換術を受けた。その後パーキンソン病と診断される。1年前に脳梗塞を発症し、入院。退院後は、長男家族と同居。長男夫婦は共働きで、日中一人になるため3か月前からユニット型の特別養護老人ホームに入居した。現在は、右足の痛みを訴えることが多く、車いすでの移動が多くなっている。

健康状態 心身機能 身体構造	・パーキンソン病 構音障害 利き手 右 ・3年前、転倒が原因で右大腿部頸部骨折し、人工骨頭置換術を受ける。 ・昨年頃から動作緩慢や転倒頻回となり入院 ・要介護度：要介護3 ・障害高齢者の日常生活自立度：A-2
活動	・移動：車いす使用。2メートルくらいは歩行ができる。介助なしの移動はできない。 すぐみ足や小刻み歩行が見られる。一歩が出にくい。方向転換に時間がかかる。 ・座位：自立。時間が経つと右側に傾くことがある。 ・食事：食欲旺盛、スプーンを使用し手を添えて介助。手の震えがあるため見守り、状況に応じて介助が必要。 食事や間食の前に嚥下体操をしている。 ・排泄：日中はトイレ誘導し、一部介助が必要。尿便意の訴えは曖昧。 夜間はポータブルトイレを使用。 ・整容：一部介助。洗面・歯磨きの声かけを要する。時折、口をすすぐ際に衣服が汚れることがある。着脱は一部介助で行うことができる。 コミュニケーション：年相応。視力が弱くなっている。「できません」「やってほしい」と訴えることが多い。多くの生活动作での介助を希望されるので、居室での臥床している時間が長くなっている。 ※ADL面や生活全般で意欲・関心の低下があり、全て介助してほしいと頼むことが多い。
参加	・他利用者とのコミュニケーションはなく、居室でテレビを見て過ごされている事が多い ・週に2度、リハビリスタッフによる健側の筋力維持を目的としたリハビリテーションと発声練習を行っている。しかし、始めるまで嫌そうな顔をしている。 ・職員とは、話しかけられれば会話する程度。
個人因子	・82歳、女性。昔は事務職で会社に勤務していた。結婚後専業主婦。社交的な方で、趣味の旅行とガーデニングを楽しんでいた。 ・脳梗塞発症後は、言葉が上手に出ないストレスから口数が少なくなった。
環境因子	・1年前に脳梗塞を発症し入院、退院後特別養護老人ホームに3か月前に入所。 ・長男夫婦は、コロナの為 面会が予約制のため月に1回程度面会に訪れる。 ・居室には家族の写真とプリザーブドフラワーが飾られている。
使用可能な物品	・車椅子 ・室内履き(マジックテープ式) ・ベッド (2 モーター) ・サイドレール ・おりがみ ・お手玉 ・ゴムボール ・ふうせん ・マラカス ・塗り絵 ・タオルケット ・クッション ・テーブル ・椅子 ・ゴミ箱 ・タンス ・おやつメニュー・お皿 ・スプーン ・ウェットティッシュ ・ヘアブラシ ・手鏡 ・タオル ・枕